

## 入試壮行会あいさつ ～校長室から応援メッセージ(9)～

令和8年1月13日(火)

皆さん、こんにちは。急にご飯を食べなくなった我が家の猫が昨日から少しずつ食べるようになり、私は気分がいいです。ウルトラマンにならい3分以内で話の決着をつけたかったのですが、気分がいいので4分になりそうです。お許しください。さていよいよ共通テストです。当日まで適度な緊張感をもって過ごし、本番では自分の力を存分に発揮されるよう願っています。

力を存分に発揮する…、そのためには、自分の意識を何か大きなものに預けてしまうのがいいと思います。自分はその何か大きなものの一部分として今ここにいる…、そういう身の処し方が気持ちの落ち着きをもたらしてくれます。そこで、二点申し上げます。

一点目です。自分が試験問題と向き合い、問題を解く、という構図を一旦カッコに入れ、問題が示す世界に溶け込んでください。問題用紙を開いた時、すぐ解答ではなく、問題をざっと眺め、「どうやらこの世界には興味が持てそうだ…」などと心の声でつぶやいてみてください。無理やりのその興味が、忘れかけた知識を蘇らせます。

二点目です。大学入試には歴史があります。これまで百年ほどの長きにわたり、大勢の受験生が入試問題と格闘してきました。前身の共通一次試験からだけでも47年の歴史があります。その壮大な歴史の中の一人として自分を置いてみてください。精神的な落ち着きを得て、背中を押されているような気持ちになると思います。

さて、山梨予備校の授業も冬期講習会の一部を残して終了しました。大学受験を目指す皆さん、山梨予備校で学んでいただき、ありがとうございました。私は予備校という場が好きです。自分が47年前に予備校に通い、現在も予備校に勤務しているからそう申し上げるわけではありません(が、それも関係ないわけではありません)。

大学を目指す日々を共に過ごす、それが予備校のエネルギーです。第一志望校突破でなくても、第二志望でも第三志望でもいいのです。その時々立ち位置から新たな何かを目指して自分の人生をつないでいく…、予備校とはそういう場だと思います。

緊張感の中で当日を迎えます。その緊張感も含めた大学受験、そしてそれを目指して過ごした予備校での生活は、人生においていつまでも記憶に残るでしょう。予備校は人に遅れをとった、とか、人生の足踏みなどではなく、人生にふくらみを感じさせるのです。

人生にふくらみ、などと言われても今はそれどころではないのですが、人生の出来事には通過する時には気づけない奥深い意味があります。その意味は長い時間を経てやっと実感できるのです。私は大学入試に向かう皆さんを、皆さんの人生を応援するつもりで応援します。健闘を祈ります。

おしまいに、業務連絡があります。私から皆さんにお渡ししたいものがあります。教室後方にこの二つの箱を並べておきますので、それぞれの箱から一つずつお取りください。それぞれの箱から一つずつ、です。ご面倒でも、私の気の済むようにご協力ください。